

9：ペニスや陰嚢が腫れてきた、痛い

ペニスには癌もありますが、それは高齢者に見られることが多いですがまれです。原因は感染が多く、**亀頭包皮炎**といって亀頭を包む皮膚（包茎）に細菌感染が起き、赤く腫れます。この疾患は、小児にはしばしば起こります。軽度のものでしたら、抗生剤の入っている軟膏を局所に塗りますが、範囲が広いものや、亀頭自体の炎症もあるときは抗生剤の内服を行います。

陰嚢が腫れる原因として多いのは、**陰嚢水腫**で精巣を包んでいる袋に水が溜まって陰嚢が腫れます。触るとぷよぷよしており、懐中電灯で見ると透けて見えます。針で水を引くと小さくなりますが、しばらくすると元に戻るため、最終的には手術をします。放置しても歩きづらいなどありますが、癌ではないので、生活に大きな問題にはなりません。

陰嚢は痛く腫れる時は、急性精巣上体炎（副睾丸炎）の場合が多く、尿道や前立腺の感染が精管を逆行して精巣状態が感染し、腫脹します。陰嚢は赤く腫れます。39度まで体温の上昇することがあります。抗生剤を投与し、解熱鎮痛剤も使用し、局所を冷やします。

この疾患との区別が大切な疾患は、精索捻転症です。思春期に（中学生から20歳頃まで）夜間の発症し、激痛で捻転した精巣は頭側に持ち上がり、精巣は血流が遮断され腫れてきます。泌尿器科医の手で元に戻ることがありますが、精巣は1回転以上の回転しており、緊急の手術となります（両側精巣固定術、対側もなりやすいので同時に行う）。精巣機能を保存するために（特に精子形成）に発症6時間以内の手術が望ましいとされています。陰嚢の内の腫大には、他にには精液瘤があり、精子

9：ペニスや陰嚢が腫れてきた、痛い

袋にたまる病気で、袋は精巣上体や精管に沿って多発します。袋を穿刺して内溶液に精子が見られると診断されます。精巣垂、精巣上体垂は退化すべき組織の遺残です。それが捻転すると、精巣が急に痛くなり、精索捻転を心配してこられる方もいます。精巣を触るとピンポイントで痛み場所がわかります（精巣垂捻転症、精巣上体垂捻転症）。痛み止めを1週間程度飲んでいただくと、多くの場合は痛みがなくなります（血流が完全に止まり組織が機能しなくなるためと思います）が、続くようであれば、手術して切除することもあります。精巣内にできる腫瘍は触ると固く、ほとんどが精巣癌で、20歳から40歳では精巣由来の癌が多く、60歳以降は悪性リンパ腫のことが多いです。精巣は摘出後、組織的に判断、確認する。

腫瘍ではないが、陰嚢の痛み、特に陰嚢の根元の辺りが立位になるといたという症状が見られることがある。指で触ると、スポンジのように柔らかく感じられる。これは**精索静脈瘤**といって精巣からの静脈が、血液の逆流により腫れることで、脚に静脈が浮かぶ**下肢静脈瘤**を見たことがあるかもしません。この状態が続いても、陰嚢の違和感以外体に大きな影響はありません。しかし、**男子不妊の原因**となり、**手術**が行われることもあります。まれに同じ側の腎腫瘍の症状のこともありますので、診察時に超音波検査で精巣とともに腎も検査します。